

環境部会 こうべ環境未来館エコスクール

ドングリ、ケナフから学ぼう地球温暖化 生3 - 環 中島 洋吉



ドングリの実を探して親子たちは あちらへ こちらへ

秋の自然を楽しもう

第11回エコスクール「秋の自然体験会～ピオトープにドングリを植えよう～」は昨年11月18日(土)こうべ環境未来館で、親子33名が参加して行われました。

最初に秋の草花の写真をパワーポイントで説明したあと、参加者は6班に分かれて、押部谷町木津の山林まで約2kmほどを30分かけて、途中の農地周りの野草や樹木を観察しながら歩きました。

曇り空で少し肌寒さを感じる天候でしたが、山林ではまだ木になっているドングリを揺さぶって落したり、落ちたものを拾ったり。帰り道、竹藪を観察しながら約1時間30分すごしました。

午後は、家族毎に午前中採取してきたドングリを主な材料として使い、スタッフが準備した補助材料と組み合わせ、自由な発想でいろいろな作品を作りました。

こどもが自分自身で作ったり、家族と合作で作ったり、数々の作品は約1時間で出来上がり、会場の参加者全員に披露しました。

最後にピオトープ周辺に家族毎に穴を掘って肥料を入れ、1年生のドングリの苗木を植えました。苗木の横に自分の名前を書いた杭を立てて、作業を終りました。参加者には毎年自分達の植えた苗木の成長を観察しに来てくれるよう呼びかけました。

参加者の感想は「自然を大切にしなければと思いました」「結構、身近な所に色々な野草があることが判った」など大半の人達が日ごろ知らなかった身近な自然に目を向け、自然を大切に思ってくれたことが判りました。

ケナフでカード作り

平成18年12月16日(土)10時から15時まで、こうべ環境未来館のエコスクール「地球温暖化防止の学習会～ケナフから学ぼう地球温暖化～」がスタッフを含む47名の参加で実施されました。



ケナフの紙作りで原料をミキサーに入れる子どもたち

ケナフという植物は成長が早く、それだけに二酸化炭素の吸収も多いという観点から、紙すきなどの環境教育題材としてよく活用されています。また、牛乳パックもトイレトーパーなどにリサイクルされるなど、良質のパルプとして活用されています。

これらの材料を使って紙すきを行い、自分だけのオリジナルクリスマスカードを作ることで、植物が地球温暖

化防止に役立っていることや、ごみを減らし資源をリサイクルすることも温暖化防止につながることに気づき、様々な環境問題を考え、また、紙すきの体験を通してものづくりにも興味を持ってもらうことを目的とした企画でした。

最初に12月が地球温暖化防止月間であることや、2040年に北極の氷が溶けて無くなると言われているが、そうならないためにどうしたらよいかを提起した後、映像を使って「ケナフ」がなぜ地球温暖化防止に役立っているか、二酸化炭素が増えると地球はどうなるのかなどのお話を聞きました。

その後、参加者は4つの班ごとに自己紹介をし、スタッフの指導のもと紙すきに挑戦し、皆さんそれぞれのアイデアで模様入りのカードを1人2枚ずつ作成しました。参加者もスタッフも出来立ての濡れたカードをアイロンで乾かす作業に汗を流し、昼からのクリスマスカード作りに備えました。

昼休みの間、子どもも大人も、この冬に水を抜き、新しく水を入れなおす予定のピオトープに残っているメダカや、ヤゴの救出作戦に参加し、生き物の観察など自然に触れる野外活動も楽しみました。

午後からは、アイロンで乾かしたカードに素晴らしい絵や文字を書いて、夫々の「オリジナルクリスマスカード」を作成しました。

完成後は、テーブルごとに作品を紹介した後、OHCを使って「こんな作品が出来

ました。誰々さんに差し上げます」と披露して楽しくエコスクールを終えました。

参加した親子は「はがきを作ったのが楽しかった。これからごみの分別や電気の消し忘れに気をつけます」「初めて紙すきをしましたが大変楽しかったです。牛乳パックだけとはまた違った手触りで素敵でした」と感想を話していました。